

令和7年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

(目 次)

第 1 部門	-	(-)	第 12 部門	石川 吉彦	(陶磁器製造工)
第 2 部門	崎田 宏二	(フライス盤工)	第 13 部門	藤本 拓司	(木製家具・建具製造工)
第 3 部門	西村 秀幸	(電気めっき工)	第 14 部門	輿石 太	(酒類製造工 (清酒を除く))
第 4 部門	三浦 敏洋	(産業用機械修理工)	第 15 部門	田口 豊	(理容師)
第 5 部門	久保田 弘之	(電気配線工事作業員)	第 16 部門	奥田 透	(日本料理調理人)
第 6 部門	井出 達也	(自動車板金工)	第 17 部門	池田 謙志	(内装仕上工)
第 7 部門	星野 秀次郎	(<small>せんもう</small> 剪毛)	第 18 部門	古川 求	(看板制作工)
第 8 部門	上杉 奈緒美	(婦人・子供服仕立職)	第 19 部門	服部 浩一	(貴金属・宝石・甲 ・角細工工)
第 9 部門	-	(-)	第 20 部門	原田 毅士	(ソフトウェア開発技術者 (汎用機系))
第 10 部門	銭丸 肇次	(左官)	第 21 部門	山口 敏和	(<small>そうこうし</small> 装演師)
第 11 部門	長岡 久夫	(造園師)	第 22 部門	三津橋 幸勇	(歯科技工士)

※ 職業部門、氏名（敬称略）及び職種を記載。

2 部門	さきだ こうじ	54歳	フライス盤工 【株式会社アイシン 広報部 TEL：0566-24-8232】	《名簿番号15》
	崎田 宏二			愛知県推薦

○【卓越した技能で生産現場も人材育成も支える匠】

オートマチックトランスミッションの試作品加工に携わり、中でもフライス盤の知識・技能に卓越している。試作品製作にあたり、加工や組立に必要な治具を構想から設計・製作・検証までを一貫して行い、高精度な要求品質を確保できる試作品づくりに貢献してきた。

また、緊急依頼加工も多くこなし、治具製作の内製率を引き上げ、生産性向上に寄与した。現在は、技能五輪選手育成の傍ら、技能検定委員や「ものづくりマイスター」として高校生へ実技指導を行う等、後進の指導育成に尽力している。

○【社内随一の腕前で、お客様の期待を超えるものづくりに挑む】

高精度かつ高品質な試作品加工に携わり、幅広い加工分野で技能研鑽に励んだ。

特に、フライス盤のイロハや切削加工の原理・原則は職人氣質な先輩から叩き込まれ、ものづくりに対するこだわりと情熱はより強くなり、「もっと早く、もっと高精度に！」を信念にお客様の期待を超える製品づくりで腕を磨き上げた。

常に向上心を持ち、その腕前を試すために、技能グランプリ「フライス盤職種」に出場した。鍛え抜かれた μ m精度の技能で、初挑戦にして「第1位」「内閣総理大臣賞」を獲得し、唯一無二のフライス盤工となった。

その技能を活かし、技能五輪、技能グランプリ選手の指導者として多くの入賞者を輩出し続け、将来を担う技能士の育成に力を注いでいる。

本人近影



〔汎用フライス盤での加工風景〕



〔技能五輪選手育成指導〕

3 部門	にしむら ひでゆき	59歳	電気めっき工 【東新工業株式会社 TEL：045-785-1800】	《名簿番号20》
	西村 秀幸			団体推薦

○【0.01mmの精度を極め、世界のスマートフォンを支えるコネクタ部品めっきのスペシャリスト】

精密電子機器部品への部分金めっきに卓越した技能を有している。
40年以上にわたりフープめっき作業に従事し、長年の現場経験と高度な知見から、精緻な吹付特殊治具を製作し、独自のめっき液管理の下、精密機器端子上に幅精度0.01mmオーダーの部分金めっきを付与させることに成功した。
氏の技能により、世界に普及するスマートフォンにおけるコネクタ部品の耐久性及び信頼性が向上し、精密機器部品の技術発展に著しく寄与した。
また、技能検定の指導等を通じ、後進の育成に尽力している。

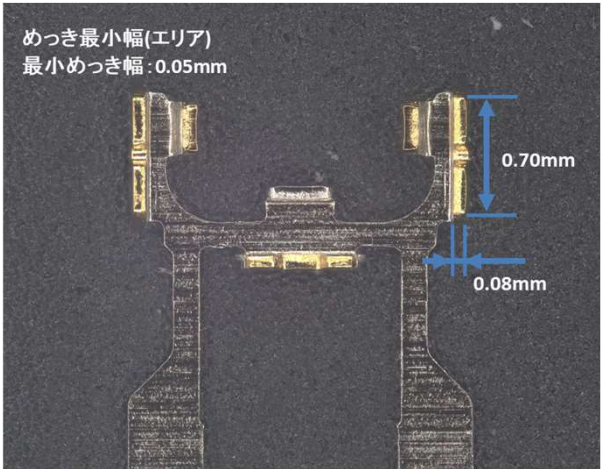
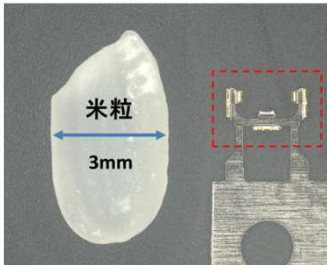
○【時代の変化に対応する技術力】

18歳からめっきに携わり、薬品や条件を変えることでめっきの仕上がりが変わることに興味を持ちめっきに没頭した。初めて新規製品の加工を任されて成功した時、これまでにない達成感と幸福感が得られた。それ以来、めっきを良い品質で安定的に加工するにはどうすべきかを考え検証するようになり、多くの経験と知見を蓄積することができた。
40年の過程で、製品形状の複雑化と微小化により、めっき加工の難易度は年々増し、より高い技術力が必要となった。そこで、これまで培った経験から、治具構造の変更やめっき液組成の変更等を行い、高難易度のめっき加工に取り組んできた。
また、現場的なものづくりの考え方から新工法の確立に貢献し、最先端部品への安定しためっき加工を実現した。
今後も現場主義にこだわってめっき加工に携わり、若い世代への知識・技能の伝承と更なる技術力向上に努めていく。

本人近影



〔スポット金めっき治具の調整〕



〔コネクタ端子にスポット金めっきを行った完成品〕

4 部門	みうら としひろ	62歳	産業用機械修理工 【株式会社小松製作所 大阪工場 TEL：072-840-6109】	《名簿番号28》
	三浦 敏洋			大阪府推薦

○【現場主義（現場、現実、現物を見ながら考える）】

建設機械製造設備保全一筋に42年間従事し、設備保全に関して極めて優れた技能を有する。故障修復・改良保全・予知予防保全に取り組み、MTBF（平均故障間隔）の延長を図り、生産損失撲滅に貢献した。近年の自然災害の増加に伴い、BCP（事業継続計画）に積極的に取り組み、全社設備グループ指導者として、BCP活動の標準化を構築した。また、設備安全基準のガイドブック作成に取り組み、設備導入時の使用標準化を図った。

自らの技能を惜しみなく後継者へ指導し、技能伝承にも貢献している。

○【ものづくりは人作り 人を育てる風土が必要 K-WAY（コマツの価値観を実践するための行動指針）】

1982年に入社後、生産設備の設備保全部門に配属され、長年、設備のメンテナンス、予防保全、改良保全に携わってきた。団塊の世代の先輩から受け継いだ、感とコツの1μmを追求した技能と最新のI o T技術を活用した機械状態の見える化により、事後保全になる前に機械の状態を予知し、予防保全を確立してきた。

「人は必ず失敗をする、だからこそ『出た失敗の言い訳より、再発防止に全力を尽くす』」ことを失敗から学び、常に「なぜなぜ」を繰り返し、同じミスをなくすように再発防止と横にらみ対策を行うことで、MTBF（平均故障間隔）延長に取り組んできた。

現在では、技能トレーニングセンタを活用し、メカ（機械系技能者）とトロ（電気系技能者）を兼ね備えた人材を、今まで培った技能で、1μmの手仕上精度にこだわった日本特有の組立仕上げ技能とFA技術に対応できる保全マンへと育成するため、技能の伝承に尽力している。

本人近影



〔オールコマツ技能競技大会選手指導風景〕



〔歴代オールコマツ技能競技大会メカトロの部の課題を考案〕

5 部門	くばた ひろゆき 久保田 弘之	47歳	電気配線工事作業員 【株式会社関電工 IR・広報室 TEL：050-3186-2920】	《名簿番号40》
				東京都推薦

○【細部にこだわり、飽くなき向上心を抱く電気工事のアンバサダー】

屋内線電気設備工事に従事する中で、技能を探究しスキルを身に付けた結果、技能五輪全国大会「電工」職種で第1位を獲得した。その後、選手育成にも携わり、数々のメダリスト輩出や、電気施工に関する作業効率及び品質安定の改善が特許・実用新案の取得に繋がり高い評価を得ている。

また、経験に培われた豊富な知識と優れた技能を活かし、社内講師はもとより「ものづくりマイスター」として工業高校等への実技指導講師を務める等、後進の育成に関して技能継承や早期技能習熟に尽力している。

○【あきらめない！何度でも立ち上がり勇気をもって前に進む】

学生時代に電気工事の技能と出会い、実技を重ねるごとに感じる上達が楽しみとなり、気が付けばその道のプロを目指すようになっていた。そこから株式会社関電工に入社し、技能五輪全国大会に興味を抱いたことが原点である。

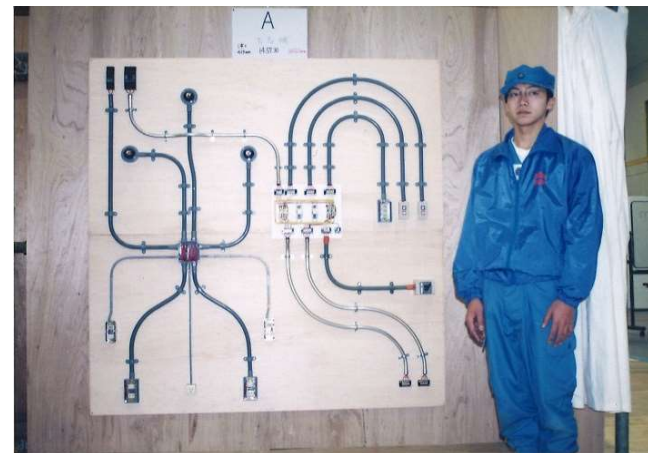
しかし、日本一への道は決して平坦ではなく、高度な技能の壁にぶつかることも多くあり、先輩方との作業の違いに自信を失うこともあった。それでも、「とにかくやり続けることが強みである」と自らを奮い立たせ、数々のトライ＆エラーを繰り返す中で技能を磨き上げ、見事に技能五輪全国大会で頂点に立つことができた。

現在は、自身の経験を活かし後進の指導・育成を行う立場を担うが、自身の信条として「プレイヤーズファースト」を掲げ、教わる立場を尊重し、目線を合わせて未来に向かって一緒に進んでいくことが重要と考えている。

本人近影



〔若年技能者への教育指導〕



〔第35回技能五輪全国大会「電工」職種 第1位 作品〕

6 部門	いで たつや 井出 達也	62歳	自動車板金工 【トヨタ紡織株式会社 総務部 広報室 TEL：0566-26-0301】	《名簿番号46》
				団体推薦

○【自動車板金技能の第一人者】

自動車板金において、開発図面を基に治具構想から車体完成までの全工程を一貫して製作する技能に卓越している。
特に、開発段階では簡易プレス型を用いた不完全な形状の部品を、手加工で図面要求精度を確保し、様々な新型車の開発やモーターショー出展車の製作を手掛けてきた。
また、後進の育成では日々の実践指導に加え、難易度の高い縮小サイズの板金製品製作の実施により、職場全体の技能のスキルアップに尽力した。さらに、豊田市主催の企業ボランティアに板金指導員として参加し、小中学生にものづくりの楽しさを伝えてきた。

○【優れた技能が新技術を生み出す】

1982年に荒川車体工業株式会社（現トヨタ紡織株式会社）に入社し、開発車両の試作部門に配属された。
「様々な工具を駆使し手加工で複雑な板金部品を製作する、職人氣質の厳しい先輩達に近づきたい」との思いで必死に腕を磨いた。当時は手取り足取りの指導はなく、目で見て盗み、耳でハンマーの音で感じ取りながら、人一倍努力し、板金技能と車両製作のノウハウの全てを習得した。
私は、先人たちが作り上げてきたどんな技術・技能も必ず習得できると信じており、後進達にもそう伝えてきた。出来上がったモノを使うことは、それを作った人の苦労に比べたら比較にならないほど小さいことだと考えている。新しいものを作り出していくことは何より重要であるが、それを支えるのは長年培われた匠の技能であり、自ら先頭に立って後進に伝承していきたいと思う。

本人近影



〔小物板金部品を手加工〕



〔メンバーと共に完成させた1/2サイズシートフレーム〕

7 部門	ほしの ひでじろう	78歳	剪毛（せんもう） 【ホシノ TEL：090-3557-0638】	《名簿番号48》
	星野 秀次郎			静岡県推薦

○【他人が剪(き)れない生地へのチャレンジ】

氏は、コール天（コードュロイ）が真っ直ぐなラインの通っている厚手の綿織物というイメージを払拭する斬新なアイディアと高い技術により、文字や柄の入ったもの、夏用に柔らかく薄手のもの等、様々な生地を考案し、欧州の高級ブランドからも開発発注の依頼がある。

また、「JAPAN TEXTILE CONTEST 2024」において、関係者も剪毛方法が想像もつかない程のコール天を出品し、イノベーション賞を受賞する等、さらなる飛躍を目指して努力を重ね続けている。

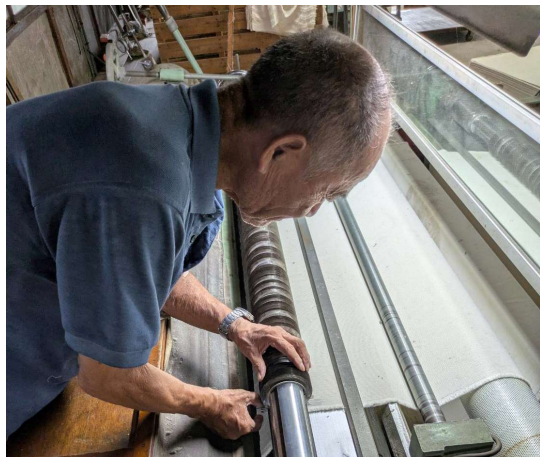
○【どんな仕事でも、先ずやってみる】

尋常小学校卒の父は海軍の主計中尉で終戦の叩き上げであった。『仕事は自分の頭で考えろ！』とは父の教えである。終戦後に群馬に帰っても仕事は無く、田舎の先発組から繊維産業が盛んな静岡県磐田市福田の話聞いた父に付いて、家族全員で福田にやって来た。

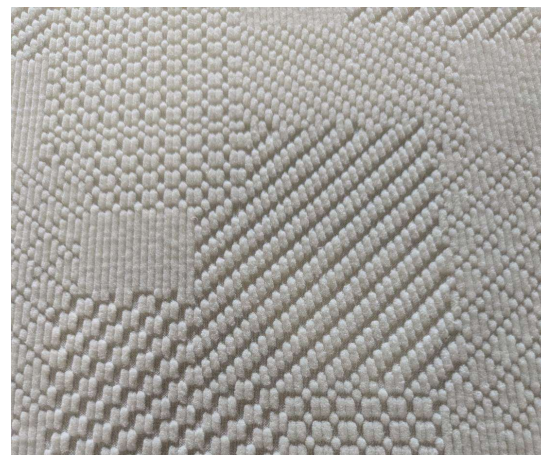
別珍・コール天は福田の地場産業で、昭和初期の恐慌時でも景気が良く、大根をかじってしのいでいた東北地方の人も出稼ぎに来るほどだった。しかし、待っていたのは余所者としての差別だった。その時に感じた『コンチクショー負けてたまるか！』これが自分の原点である。

仕事は苦労というよりも実は面白かった。30歳手前に、誰もやろうとしなかった一宮発注のウールを初めて剪った。これを機に他人がやらない、やれない剪毛に挑んできた。1ヵ月に1万反（1反27.5m）のコール天を剪ったこともある。このような自信を胸にまだまだ頑張りたい。

本人近影



〔コール天を^きる前の作業（ガイドニードル刺し）〕



〔^{うね}畝の立体性を究極に至るまで高めることを狙ったコール天〕

8 部門	うえすぎ なおみ 上杉 奈緒美	76歳	婦人・子供服仕立職 【アトリエ NAO TEL : 011-302-7703】	《名簿番号55》
				団体推薦

○【注文仕立て職として】

婦人服仕立て職として顧客のニーズに合わせ、特に、扱いの難しいオートクチュールならではの技能を活かした高度な技術を必要とした生地、素材を使った縫製を得意として高い評価を受けている。技能グランプリ大会では敢闘賞を受賞した。後には技能グランプリ出場選手及びアビリンピック出場選手の技術指導、さらにはアビリンピック国際大会出場選手の強化訓練指導を担当する等、後進の育成に努めている。

北海道地区においては、技能検定委員、「ものづくりマイスター」として中・高等学校での指導、団体役員として技術指導に貢献している。

○【楽しみながら仕事を継続できる喜び】

18歳で洋裁学校に入るまで、ミシンを使う事が出来なかった私が、卒業後にオーダー店のアトリエで縫製員として仕事を始め、その後、アトリエのチーフを経て独立し、自らのアトリエと教室を開設した。今でも仕事を続けられて、お客様に喜んでいただける幸せを感じている。

様々な人とのご縁で技術、技能を勉強する機会を得る事ができたおかげで、技能士としての意識を持ち、仕事に臨んでいる。これからも、研鑽を続けながら確かな技術をお客様に提供し、服作りの技術、技能を若い人達に微力ながら伝承し続けていきたい。

本人近影



〔顧客のケミカルレースドレス裾上げ手作業中〕



〔全日本洋装技能コンクール 厚生労働省職業能力開発局長賞受賞作品〕

10部門	ぜにまる けいじ	48歳	左官 【株式会社イスルギ TEL：076-247-4646】	《名簿番号69》
	銭丸 肇次			石川県推薦

○【現代の建築ニーズに歴史ある左官の伝統的技術をマッチさせて数々の塗り壁や作品を仕上げてきた】

入社以来長きにわたり一貫して左官業に従事してきた。昔ながらの材料や技術を駆使する伝統的工法や漆喰（しっくい）・珪藻土を使って、伝統的技術と現代の建築ニーズを融合させる現代的工法の両方に、たゆまぬ努力と旺盛な研究心により安定した技量を発揮してきた。加えて、各種左官競技会でも優秀な成績を収め、特に第35回技能五輪国際大会左官部門にて優勝した。

後進への指導では、イスルギ付属技能専門校の実技講師として、若手左官工の育成や各種左官競技大会での入賞者の輩出に大いに貢献してきた。

○【左官の技術を極める】

兄が元々建築関係の仕事（建築板金）をしていた関係で、建築関係の職人に対する漠然とした憧れがあった。

幼い頃から細かい手仕事が好きで、左官業を志し、株式会社イスルギへ入社した。振り返れば、苦労したことは沢山あり、今でも日々の仕事を進めるうえで頭を悩ますことは多い。

最も留意したことは、現場の職人が一致団結して大きな壁を仕上げるという目的に対して、自分としてどう向き合うかである。そのために自分の技能を磨き上げて、若手や後輩職人に手本を示してけん引するように心掛けてきた。職人の仕事は、より良くより早くを目指して絶えず日々改善していく終わりのない仕事である。そのためには、根気と集中力維持が大事である。

本人近影



こて
[茶室用の本炉の炉縁を鏝にて整えている作業]



じゅらく
[土壁・聚楽仕上げ仕様の茶室用本炉]



つりがねどう しっくい
[釣鐘堂の漆喰彫刻の保存修理]

11部門	ながおか ひさお	69歳	造園師 【植昭 長岡造園 TEL：075-872-0005】	《名簿番号72》
	長岡 久夫			京都府推薦

○【庭園トータルプロデュースが信念】

石積み・石張り・石組み・樹木育成・竹垣等の基礎技術を疎かにせず、全体の調和を重視した高いレベルの作庭を行っている。中でも、石に関する技術を最も得意とし、石が生きるように石燈籠や手水鉢、景石を配し、延段や竹垣を組み合わせた庭づくりを展開している。施工環境に応じて柔軟に対応しつつ、京風でバランスの取れた作庭を実践している。

造園界で分業化が進む中、すべての工程を担ってこそ庭師であるとの信念を持ち、作庭から維持管理まで一貫して対応できる職人の育成にも尽力している。

○【柔軟な京の庭師】

幼少期は、京都嵯峨野の植木畑や資材置場で祖父や叔父の背中を見て育った。

樹木・石材そして庭園のことを自然と意識するようになり、庭師の道に入った。歴史ある「京都の名工」と称される方々の技に触れる機会に恵まれ、その都度、それぞれの確かなこだわりと時には対峙しながら、自身の懸命の努力で、その技や考え方を己のキャリアに取り入れてきた。

入職以来47年間、「京風とは何か」という課題と常に向き合いながら作庭・維持管理を行っている。伝統的な京風庭園をベースとしながらも、趣味の旅行で感動した景色を自身の解釈で庭に落とし込む等、柔軟さや遊び心を持つことを心掛けている。後進の育成に当たっては、庭園トータルプロデュースという信念を継ぎ、施主様と庭園に長く寄り添っていける人材になるように指導を行っている。

本人近影



〔現場での作業中における従業員への指導〕



〔渡り六分に景四分の、玄関までの路地・露地庭（用と景のバランス）〕

12部門	いしかわ よしひこ 石川 吉彦	80歳	陶磁器製造工 【安養寺窯 TEL：022-233-1007】	《名簿番号79》 宮城県推薦
<p>○【ユニバーサルデザインの「酒勾瓶（しゅこうびん）」の開発】</p> <p>陶磁器の空洞収縮率の活用法における業界第一人者である。</p> <p><u>陶磁器の楕円空洞に中指と薬指が入る構造にすることで、握力が弱くても手から抜け落ちないユニバーサルデザインの「酒勾瓶」の開発に成功した。</u>楕円空洞が不均衡であるため、本焼き後の収縮で壊れてしまう課題があったが、形状による収縮の違いを見極めて改良を重ね、9個の部品を貼り合わせる技法によって、課題を解決した。</p> <p>また、<u>工房で陶芸教室の講師として技術指導を行い、基礎から専門的理論や実践までを教えている。</u></p>				
<p>○【持続可能な社会貢献を目指して 生涯現役が人生の支え】</p> <p>陶磁器の伝統技法を独学で学び、自助具という未知の世界へ進んで、ユニバーサルデザインの垣根を取り払う方法で、酒勾瓶を考案した（写真掲載）。5年の歳月をかけて、宮城県を発祥の地とした全国にも類のない唯一無二の技法を確立した。</p> <p>万能の道具として各自が日々大切に使われるように、年齢に関係なく支えるゆのみとして、3つの工程に5つの作業を経て砂紋彫りを施し完成させた。</p> <p><u>酒勾瓶は握力を支える自助具として、持続可能な社会の貢献に繋がると常に思い描いている。水平思考の方法を独学で学び、自ら生涯現役を維持することを人生の支えとして、次世代への技術指導に取り組んでいる。</u></p>				
本人近影 	 <p>しゅこうびん [酒勾瓶一合の最終段階]</p>		 <p>[作品名：夜半の月]</p>	

13部門	ふじもと ひろし	72歳	木製家具・建具製造工 【藤本木工所 TEL：059-378-7595】	《名簿番号87》
	藤本 拓司			三重県推薦

○【組子に新しい息吹を ―伝統技法から生まれる絵画的表現―】

伝統的な組子技法の菱型組子や香図組子（こうずくみこ）やオリジナル模様の組子を得意とし、三ツ組手（みつくで）の技法を用いて、絵画的に仕上げるデザインを研究し、表現力を向上させる工夫をしている。氏の作品は、三重県建具作品展示会及び全国建具展示会において、愛知県知事賞や三重県知事賞等多くの賞を受賞している。

所属している組合では技術講習会の講師として技術継承に尽力し、次世代を担う技能者の育成を目的として小中学校の技能体験学習等の講師としても活動している。

○【木の魅力を広げ、建具の新たな可能性へ】

昭和52年に藤本木工所を創業して以来48年、県内外の建具職人の仕事を学び、伝統の技を糧として研鑽を重ねてきた。お客様の暮らしに寄り添う建具づくりとともに、次代へ伝えるべき手仕事の大切さを胸に刻み、ものづくりと真摯に向き合っている。

今後も、全国や三重県の建具作品展示会に出品を続け、組子細工の伝統技法を基本に据えながらも、従来の枠にとらわれない新たな発想や意匠を取り入れ、さらには、異業種や新分野とのコラボレーションにも積極的に挑戦し、建具の可能性を広げていきたい。

また、後継者の育成や技術伝承に力を注ぎ、建具の美しさや実用性を広く伝える活動を通じて、木の温もりを活かした建具文化を未来へと橋渡しをしていくことが使命と考えている。

本人近影



【組子細工のパーツ入れ作業の様子】



【2024年製作建具作品：射し込む光】

14部門	こしいし ふとし 輿石 太	62歳	酒類製造工（清酒を除く） 【サントリーホールディングス株式会社 広報部 TEL：03-5579-1150】	《名簿番号93》
				大阪府推薦

○【100万樽以上の原酒の品質を把握し、ウイスキーを設計するブレンダー】

ウイスキーの配合に関して優れた技能を有している。主席ブレンダーとして「響」や「白州」、「山崎」、「碧A○」等の主力のウイスキー製品の担当ブレンダーを務めてきたほか、製品の中味品質維持や、新たな製品開発によるウイスキー市場の需要創造に尽力してきた。

また、次世代のウイスキーづくりを担う後進のブレンダーの育成や、各製造工場の現場社員の官能評価力を高めるための指導を担う等、後進の技能者の指導育成に貢献している。

○【美味品質を追求し、世界中のお客様に喜んでいただけるウイスキーを設計】

山梨県で育ち、県内にワイナリーや蒸溜所があることでサントリーに親近感を持ち入社した。最初は白州蒸溜所に配属され、原酒の貯蔵に携わった。白州蒸溜所だけでなく、山崎蒸溜所や近江エージングセラーで貯蔵される全ての原酒に関わりたいと思い、ブレンダーの道へ進んだ。

若い頃は先輩達のコメントを聞いて官能評価技能を高めてきた。ブレンダーの仕事で重要なのは「チームワーク」であり、日々ブレンダー全員でテーブルを囲み、原酒の味や香りを確認する。

華やかで柔らかな香りを持つサントリーウイスキーらしさを原酒の配合により実現すること、美味品質を追求し世界中のお客様に喜んでいただけるウイスキーを提供し続けられるよう励むことが使命であると考えている。創業から100年以上紡がれてきたウイスキーづくりの技能や熱意を受け継ぎ、次世代へ繋いでいく。

本人近影



「ウイスキー原酒の微細な香味の違いを的確に判別し評価し、それぞれの個性を見極め、原酒を配合する」



「開発を担当した製品のひとつ「サントリーウイスキー響30年」」

15部門	たぐち ゆたか	76歳	理容師 【愛知県理容生活衛生同業組合 TEL：052-741-4088】	《名簿番号100》
	田口 豊			愛知県推薦

○【理容技術者として】

アイロンパーマ技術に卓越しており、顧客一人ひとりの髪質や希望に応じて最適なアイロンを選定し、髪の健康を保持しながら施術を行うことで、理想的なカール感に仕上げることができる。その自然なヘアスタイルは、多くの顧客から高い評価を得ている。

さらに、国内外の大会で優秀な成績を残しているほか、講師として技術指導や後進の理容師の育成にも尽力しており、理容業界全体の技術向上と発展に大きく貢献している。

○【理容師としての仕事ができる喜び】

理容師としてお客様から「気持ちよかった」「さっぱりした」「ヘアスタイルがかっこよくなった」「ありがとう」等と言葉を掛けられ、笑顔で帰る後ろ姿を見送ることができる。こんな素敵な仕事があるだろうか。

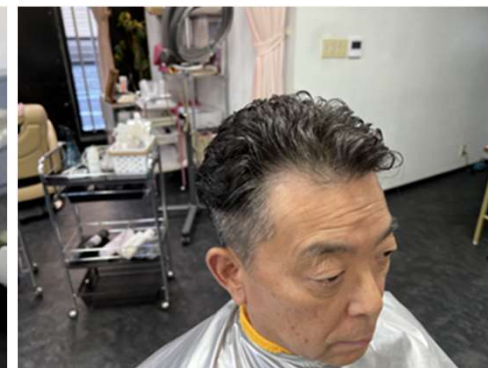
15歳でこの仕事に入り、どんどんこの仕事が好きになっていった。練習すれば技術が上達すると信じ、日々、研鑽を重ねてきた。お客様に喜んでいただき、その笑顔を見ればこちらもとても充実する。技術講習会には率先して参加し、21歳の時に第20回東海北陸地区理容競技大会で優勝し、全国理容競技大会にも出場した。そうした中で、この仕事での目標が明確になってきた。

これからもお客様に喜んでいただけるよう、心を込めて精一杯努めていきたい。

本人近影



〔アイロンパーマの施術〕



〔2液処理後、流した状態・自然乾燥した仕上がり〕

16部門	おくだ とおる	56歳	日本料理調理人 【銀座小十 TEL : 03-6215-9544】	《名簿番号107》
	奥田 透			一般推薦

○【技の進化を追求し、世界と未来へつなぐ和食料理人】

長年にわたり和食の伝統技術を磨きながら、既成概念にとらわれない独自の調理技術を築いてきた。特に、鮎の塩焼きや大鰻の炭火焼きにおいて独創的な焼成技法を確立し、唯一無二の味覚表現を実現している。
また、パリでは「活締め」技術を広め、現地の料理人に大きな影響を与えた。国内では、学校給食における和食推進に取り組み、出汁を軸とした文化継承に尽力している。
近年は、東京すし和食調理専門学校の教育顧問を務め、後進の指導に力を注ぎ、和食の技と心の継承に貢献している。

○【「何か」を変え、新しい日本料理を生み出す】

50歳を機に、「同じ献立を出さない」、「使い慣れた器を用いない」等、私は自らに多くの禁じ手を課してきた。新しい「何か」は、その制約の中からこそ生まれると考えたからである。その挑戦は想像以上に苦しく厳しいものであったが、練り上げた料理を通じて食べ手の喜びや驚きを目にした時、その苦労は確かな手応えへと変わっていった。
料理は日々の繰り返しの中にこそ発展の余地があり、工夫と挑戦を重ねることで新しい可能性が拓けるものである。私は料理を通じて人を幸せにし、さらに和食文化を未来へ継承することを使命としている。
これからも変化を恐れず挑戦を続け、和食の新たな境地を切り拓く料理人でありたい。

本人近影



「唯一無二の食感を有する「鮎の塩焼き」の盛付け」



「伝統と革新が調和する新しい世界観を表現」

17部門	いけだ けんじ 池田 謙志	45歳	内装仕上工 【株式会社池田内装 TEL : 0853-53-0754】	《名簿番号125》
				島根県推薦

○【新たな装飾美の創出に貢献】

内装仕上工、とりわけ壁装職人として、技能グランプリで内閣総理大臣賞を受賞するとともに、長年意欲的に練磨を重ねてきた「袋張り」技法等の技法に卓越している。

現在、全国各地の現場から招請を受け、国宝や重要文化財にも関わる仕事を手掛ける等、復元等に寄与するとともに、新たな装飾美の創出に貢献している。

また、技能士（職人）の育成・輩出に注力し、従業員及び後進へ技能検定受検や技能競技大会出場を勧奨するとともに、熱心に指導する等、業界の技能水準の向上に寄与している。

○【技術とは出会いや繋がりの中で学ぶもの】

この仕事を始めて数年が経ったまだ20代初めの頃、東京の飯島勇氏との出会いで、技能の素晴しさや職人の誇りを教わり、技能検定や技能大会等の目標を持ち技能の習得に励んだ。

その後、広島の倉迫貴裕氏に師事し、全国各地で高度な技術を有する仕事に携わり経験を積んでいった。

内装は、日々進歩する技術を取り入れる努力とともに、伝統的な技を活かし続けることが求められる。同じ現場や状況は二度となく、毎日が挑戦であり、扱うものが難しいほど大きな達成感を得られる世界だと思う。

その中で、技術とは、人との出会いや繋がりの中で学び伝わっていくものだと深く感じ、地元のみならず、受け継いだ技術と想いを次世代に伝えていくことが自分の使命であると考えている。

本人近影



〔岡山城天守閣展示壁紙張り〕



〔三重県旧諸戸家洋館修復工事〕

18部門	ふるかわ もとむ 古川 求	72歳	看板制作工 【株式会社クリエイティブダイワ TEL：024-944-0088】	《名簿番号130》
				福島県推薦

○【手書きによる日本古来の制作技法】

一貫して屋外広告（看板）制作に従事しており、幅広い各種書体文字や図案化・装飾化された特殊広告文字（ロゴ）をフリーハンドにより揮毫する技能と、筆を駆使した手書きによる制作技法に卓越している。

技能五輪全国大会では、自ら出場した体験をもとに選手への技術指導を行い、広告美術職種における福島県選手の三年連続金賞受賞という快挙に貢献した。

「ものづくりマイスター」として、小学生のものづくり体験教室をはじめ各種イベントにも積極的に参加する等、技能尊重気運の醸成にも貢献している。

○【新旧技法による価値ある屋外広告物制作の伝承】

幼少期より画業に興味を抱き、広告美術業に入り、手書き、レタリング、デザインの研鑽に努め多くの技能を修得した。

ユーザーからの多種多様な要望にも工夫を凝らした見事な作品作りを心掛け、常に高い評価を得ている。材料・機械等の進化に伴う新しい技術の研鑽にも努めている。

これからも、手描きの技術継承に努めるとともに、ITを活用し、都市景観に配慮した美しい屋外広告制作に尽力したい。

また、安全・安心な作業環境づくりにも努めていきたい。

本人近影



【ユーザーの要望に合わせた屋外広告物を制作】



【第29回技能グランプリ厚生労働大臣賞受賞作品】

19部門	はっとり こういち 服部 浩一	62歳	貴金属・宝石・甲・角細工工 【独立行政法人造幣局 TEL:06-6351-5158】	《名簿番号133》
				大阪府推薦

○【国家・社会への功績を讃える重厚で品格のある勲章に輝きを与える】

各種勲章及び金属工芸品製造の仕上作業に長年従事し、特に、糸鋸の引き回し作業、ヤスリ作業、キサゲ作業及びロウ付け作業において、高度で卓越した技能を有している。

我が国最高位の勲章である大勲位菊花章頸飾（だいくんいきっかしょうけいしょく）をはじめとする各種勲章の製造に必要とされる精緻かつ繊細で優れた技能と経験をもって、勲章等の製造業務に大きく貢献している。

また、1級貴金属装身具製作技能士としての技能と職業訓練指導員の力量を活かして部下職員の指導に尽力し、勲章等の製造技能の維持向上に寄与している。

○【伝統技術をこの手から次の世代へ】

幼い頃からものづくりに憧れ、高校生の時に出会った勲章製造の仕事に「これだ」と直感し、造幣局の門を叩いた。以来、ひたむきに技術を磨き続けた。天皇陛下が佩用される大勲位菊花章頸飾の製造に携われた時の緊張と感動は、今でも忘れられない。

時代の移り変わりとともに、効率化に伴い一部の工程が機械化される中、伝統の技と最新技術を融合させることに日々苦心している。

最高の品位を維持しつつ、伝統を未来へと繋ぐため、技術向上への探求は今もなお途上であるが、この手から次の世代へと、匠の技を伝えていきたい。

本人近影



だいくんいきっかしょうけいしょく
[大勲位菊花章頸飾部品のヤスリ作業]



ぞうがんこうこう
[金銀線象嵌香合]

20部門	はらだ つよし 原田 毅士	63歳	ソフトウェア開発技術者（汎用機系） 【ラティス・テクノロジー株式会社 TEL：03-3830-0333】	《名簿番号139》
				一般推薦

○【アルゴリズムで世界を変えた、3D革新の立役者】

曲面を含む3D形状処理に卓越し、3DCADの基盤技術や高速処理アルゴリズムを構築可能な人材である。
巨大なCADデータを1/100に圧縮しつつ、構成・寸法情報も保持する軽量3D形式「XVL」を考案し、自動車・半導体等の基幹産業に貢献した。設計・製造工程の効率化を実現し、グローバル展開も支援する存在になった。
 若手育成ではアルゴリズム境域やコード解析を通じて実践的知識を継承する等、大学を凌駕する3D教育により日本の3D技術力を世界水準へと導く役割を果たしている。

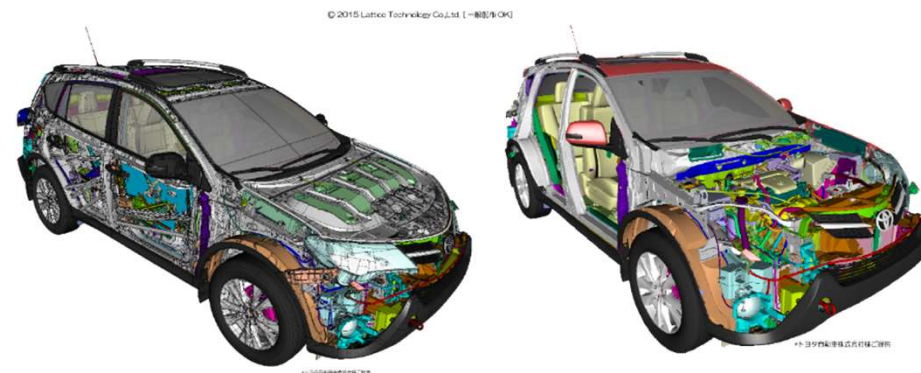
○【挑戦と継承で、日本の3D技術を世界へ】

大規模3Dデータの軽量化に対して、限界に挑戦し続ける情熱を持って取り組んでいる。膨大なCADデータを1/100に軽量化しつつ、ものづくりに必須の構成・寸法情報までも保持する技術を実現した。
 3Dデータ活用ソリューション構築に当たっては、処理速度の壁との格闘を難解なアルゴリズム作成で突破した。
日本のものづくり産業の生産性向上と世界展開を支援するという高い意識で3Dデータ活用ソリューション開発をけん引している。
 日本のみならず、世界にこのXVL技術を広げるという使命感を持ち、次世代へのXVL技術の継承に向けて、若手技術者に3D技術やアルゴリズム教育を実践している。

本人近影



〔プログラミング風景〕



〔実際にXVLで表現された車一台分の3Dデータ〕

21部門	やまぐち としかず	75歳	装演師（そうこうし） 【株式会社墨仁堂 TEL：054-248-0117】	《名簿番号140》
	山口 敏和			静岡県推薦

○【文化財の傍らに寄り添い、美術と科学、歴史に基づいた素材作りと技術を継承する修理技術者（装演師）】

氏は装演文化財の修理の内、国指定作品の修理を専門に行う修理技術を保持している。全国にはそのような修理を取り扱う工房が10工房存在し、それらの工房で構成される国宝修理装演師連盟は、国の選定保存技術保持団体に指定されており、氏が設立した株式会社墨仁堂はその一つである。

氏はその修理技術の中心として存在し、県内外の国指定修理を手掛けている。現在も現役であり、後進の指導にも積極的に携わっている。

○【道具の先にあるのは、技術ではなく人の思い】

文化財は非常に脆く、時代の荒波を越えて現代に残ることは奇跡に近い。その背景には、所蔵者の深い愛情と、修理に携わる人々の高度な技術と情熱がある。私は修理する作品に触れるたび、過去の人々の思いや工夫に心を寄せ、調査や解体の瞬間には歴史の息吹を感じ、身が引き締まる思いがする。

技術や材料の世界もまた厳しく、後継者不足が深刻な課題となっている。だからこそ、平和な社会の中で人を育て、技術を継承し、未来へ文化財を贈る環境づくりが私の使命であり、責任だと感じている。文化財は単なる物ではなく、人の営みと記憶が宿る存在であり、それを守ることは日本の歴史や文化の一端を守る大切な仕事だと感じている。

本人近影



〔絵画作品の表打ちをして表面を保護しているところ〕



〔材料から伐採して発酵洗滌^{せんてき}させて作った竹紙を使い、欠損部と同型のパーツを作り埋めているところ〕

22部門	みつはし ゆきお	62歳	歯科技工士 【和田精密歯研株式会社 札幌センター技工部 TEL:011-786-1118】	《名簿番号143》
	三津橋 幸勇			団体推薦

○【機能と審美を調和した補綴装置】

聴覚障害を抱えながらも、筆談や視覚的なコミュニケーションを工夫し、前装冠製作において顔貌に調和する形態調整や色調再現に卓越した技術を有する。第40回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）において金賞を受賞した。

院内技工及び技工所での経験を活かし、自然な色調再現や咬合を考慮した補綴物（ほてつぶつ）の製作により、機能性と審美性を両立し患者ごとの細かな要望に応える技術力を発揮している。また、若手技工士には臨床を通じて、歯冠形態や色調再現、咬合調整等の技術を丁寧に伝承している。

○【技術の研鑽と努力の継続】

先生と母の「手に職を」という言葉をきっかけに、北海道高等聾学校専攻科歯科技工科へ進学した。歯科技工士免許を取得後、有床義歯や歯冠補綴などの製作に従事してきた。現在は歯科技工所で前歯部の硬質レジン前装冠を担当している。

歯科技工士の仕事は、患者の口元の機能と美しさを回復し、笑顔と自信を支える「見えない医療」の一端を担うものである。技術の進化に対応しながら、日々研鑽を重ねている。

「全国身障者技能競技大会（アビリンピック）」に初参加し、2020年に金賞を受賞した。2023年にはフランスで開催された国際大会に日本代表として出場する等、障がいのある技術者としての可能性を広げる活動も行っている。

北海道デフ歯科技工協議会会長としても活動し、歯科技工用語手話研修会の講師として、聴覚障がい者との技術的な情報共有に取り組んでいる。

本人近影



〔研磨作業風景〕



〔完成した硬質レジン前装冠〕